

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1272700426
法人名	株式会社ワカバ
事業所名	グループホームワカバあびこ
所在地	〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸127-1 (電話) 04-7182-8896

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	4月25日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤9人, 非常勤6人, 常勤換算12人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55000円	その他	食費56,700, 水道光熱費26,250, 寝具洗濯3,150, 理美容代, オムツ代など	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	525 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 1,890 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	14 名	男性	7 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 70.28 歳	最低	68 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏光陽病院 我孫子聖仁会病院 やばしら歯科
---------	-----------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR成田線東我孫子駅から程近くにグループホームワカバあびこがある。ISO9001認証を取得し、さらにスウェーデンの認知症ケアやタクティルマッサージなどを導入する意欲的なホームである。最近では認知症対応型通所介護の指定を受けた。2ユニットのホームは明るく清潔で、書や切り絵など入居者の作品や、花などが飾られている。入居者がより快適で利用しやすくなるよう料金も保証金を50万円から30万円に、家賃を7万円から5万5千円に値下げした。男性と女性が半々の同ホームでは、職員と入居者が家事をしたりゲームをしたりして、和やかに過ごす様子が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で指摘を受けた身体拘束については、職員全員で話し合いの上、一切なくすようにした。食事・水分量については、必要な入居者に関しては記録し、その他の方はどうすべきか検討中である。広報紙の再発行も進めているところである。これ以外にも、静かになりがちだったホームに活気を持たせるため、行事を増やし、食事中もテレビを消して、会話を楽しみながら皆で過ごすよう努めている。</p>
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、管理者が自己評価票に取りまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	過去に2回開催している。しかしながら開催は不定期で、参加者も1回目に比べ2回目は少なくなってしまう。これまでに話し合ったのは、ホームの紹介や状況報告、イベントの案内など。「24時間テレビ」の募金箱設置拠点として協力を行った際には、運営推進会議を利用して地域に広く声かけし、多くの近隣住民が集まったとのことである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームのパンフレットに「年2回、利用者・利用者家族向けにアンケート調査を実施し、隠れたニーズを引き出してサービス向上へつなげる」と書かれているが、外部評価の利用者家族アンケート以外にもう1回は行ってない。家族会は無く、運営推進会議でも家族の参加は若干名なので、家族の潜在的ニーズの汲み上げが必要と思われる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣センターこもれびや湖北台公民館の各種イベントに参加し、そこで地域の人々と触れ合っている。下ヶ戸地区の自治会には、参加を要請しているところである。地域と防災上の協定等の連携はまだ結んでいない。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(株)ワカバの介護品質方針である「思いやりといたわりの心」をホーム随所に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「思いやりといたわりの心」という品質方針は、新人教育や職員ミーティングの際に管理者から話しをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	我孫子市が運営する「近隣センターこもれび」や「湖北台公民館」の各種イベントに参加し、地域の人とのふれあいの機会としている。自治会への参加は、現在すすめているところである。		下ヶ戸地区の自治会にも参加し、防災協定や非常災害時の連携を話し合うことが期待される。また地域ニーズの発掘も期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	身体拘束は一切無しを実現した。食事・水分量は、必要な入居者に関して行っている。休刊していた広報紙も再開する予定である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去に2回開催。ホームの紹介や状況報告、イベントの案内などを行った。2回目は参加者がぐっと減り、定期開催には至らない現状である。		運営推進会議の意義を再検討し、地域に密着したホームとなるべく、会議を執り行っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	我孫子市の介護支援課とは、ホームのみならず法人の(株)ワカバも頻繁に訪問して、意見交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「介護連絡票」というシートに今月の記録、特記事項、介護スタッフの一言、病院受診の記録などを入居者個々に記載し、家族に送付している。金銭出納帳の写しも毎月家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は重要事項説明書に明記されている。面会時にも職員が家族の話しを聞くようにしているが、家族会等はなく、運営推進会議への参加も少数である。		家族の意見は、一部の意見を言う人の言葉のみを聞くのではなく、全体の潜在的ニーズを探ることも大切と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成19年6月にホームの管理者が交代したが、特に大きな影響はなかった。法人内の職員の異動は殆どないが、退職を防ぐため、休暇の希望を取り入れたりと、育児支援をしたりと、法人側が努力している。		新人採用の際は、現場職員の意見も取り入れ、現在ホームで求められている人材を採用することも離職率を下げる方法の一つかと思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修では2回の自己評価を行い、管理者が力量に応じて指導している。現任職員は我孫子市にある千葉県福祉ふれあいプラザの介護実習センターが、福祉専門職を対象に実施している介護福祉の各種研修に参加するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会や我孫子市の介護サービス事業所の連絡会に参加し、意見交換や情報収集に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>馴染み方には入居者個々に個人差があるが、なかなか馴染めない入居者には、職員が話を聞いたり、家族にも協力を依頼して、安心してもらえるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の支度や後片付け、掃除、タオル畳みなど、入居者は出来ることをしながら生活している様子が見受けられた。男性入居者は買い物の荷物運びや新聞の受け取りなど、個々に役割を見出している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常会話、動作、表情、きめ細かなアセスメントなどを駆使し、希望や意向の把握に努め、職員は気付きを連絡ノートに記入し、情報共有してサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>常勤職員、居室担当、ケアマネ、往診ドクター、看護師などの意見を取り入れ介護計画を作成している。作成後は、ご家族の承認を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>急変時は都度、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月に1回は見直しをしているが、記録がついていかない場合もあるので、改善するよう取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護事業所(共用型)の指定を得たが、まだ実績がない。		せっかく通所介護事業(共用型)の指定を受けたので、地域により一層開かれたホームとなるため、開設の実現が期待される。
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携病院の利用が主だが、診療科目によっては他病院も受診する。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約段階でホームのできる限界を十分説明し、食事の飲み込みが出来なくなったり、寝たきりで医療ケアが必要となる場面では、主治医や家族と相談しながら、転居先を紹介している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務のある書類は外部への持ち出し禁止で、廃棄はシュレッダー処分としている。入居者への言葉掛けは、言葉遣いチェックリストを作り、職員のミーティングで学習している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	男性の掃除や買い物の荷物運び、女性の調理や洗濯の手助け、貼り絵や歌、カルタなどの楽しみ、散歩など、入居者一人ひとりのペースと好みで穏やかな日々が過ごせるよう、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の希望を取り入れた献立や調理が出来るよう心掛けている。時にはファミリーレストランでの外食、おすしや弁当の出前を取るなど、食事が楽しいものになるよう工夫している。入居者と職員は同じ食卓を囲み、さりげない介助をしながら共に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前10時から午後4時までを入浴時間としている。午後6時から午後8時の職員が手薄な時間帯にも、希望があれば入れるよう検討中である。		入居者が入りたい時にお風呂に入れるようにするため、ぜひとも実現が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の生活歴、好きな事などを把握し、その日の心身の状態に配慮しながら、毎日が楽しく体を動かせるような場面を工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出て日光や風に当たり、四季の移り変わりを体感することの重要性を職員はよく理解しており、声かけで要望を取り入れたり、体調を見て散歩、買い物、ドライブ等に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために施錠するが、日中は玄関に鍵をかけていない。入居者が一人で外に出てしまうのを防ぐために、センサーを設置している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	初期消火訓練の実施、緊急連絡体制や備蓄の確保は行っている。しかしながら、職員の役割分担の明示や、地域との協力体制作りなどは行われていない。		日中・夜間それぞれに、災害時における職員の役割分担を明確にしておくとともに、地域との連携作りも必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体重測定を月1~2回行い、痩せてきたり、逆に太ってきた人がいないかチェックしている。食事量や水分量は必要な場合に記録を取っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、匂い、明るさ等は適度に保たれている。時計やカレンダー、季節を告げる装飾品などが飾られ、家庭的雰囲気をかもし出している。居室やトイレ、浴室入り口には間違いを防止する表札が掲げている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の協力を得て、思い出の品や装飾品が持ち込まれ、めいめいがその人らしく安心して過ごせるよう、配慮されている。しかしながら、入居者本人の状況が日々変わり行くため、対応が遅れることもある。		入居者個々の身体状況や日常生活動作を十分観察して情報共有し、状態変化に合わせて家具や装飾品の配置換えをすることが望まれる。